

# \* 逆風に学ぶ

シリーズ～神の国～

2013/7/28

# マタイ福音書14章22～33節

それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。

イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたした。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

# 漕ぎあぐねていた弟子たち

\* 五つのパンの奇跡の直後, イエス様は弟子たちだけを船に乗せ, ご自分は「祈るためにひとり山にお登りになった」

\* 人々が王に祭り上げようとしたので(ヨハネ福音書)

\* イエス様はしばしばひとりで祈られた

\* 弟子たちは向こう岸に向かって漕ぎだしたが, 逆風のためになかなか進めなかった

\* 「何スタディオン」=4,5km(ヨハネ福音書)

\* ガリラヤ湖は東西12km, 南北21kmなので, 湖の真ん中あたり?

\* 普通なら5時間以内で向こう岸に到着する



ガリラヤ湖

# 近づいて行かれたイエス様

\*「夜が明けるころ」イエス様は湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた

\*一晩中漕ぎあぐねる弟子たちを見ておられたのか？

\*「そばを通り過ぎようとされた」(マルコ福音書)

\*イエス様の姿を見て弟子たちは「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた

\*ガリラヤ湖の漁師ともあろう男どもが！

\*イエス様だと分かり、お調子者のペトロが水の上を歩こうとして沈みかけた

# 努力が無駄になることへの恐れ

- \* 向こう岸を目指し、一晩中漕ぎ続けていた弟子たちが抱いていた恐れ
- \* 様々な努力を続けても一向に成果が現れない、状況が好転しないときに抱く「恐れ」
  - \* もうダメなのではないかという失望やあきらめと共に
- \* 神様は時々「わざと」眺めておられる!
- \* 「主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです。」<1コリント15:58>

# 経験したことのない事態への恐れ

\* 弟子たちはイエス様を幽霊だと思い、叫んだ

\* まさか湖の上を歩いてこられるとは思わない

\* はじめての出来事に直面すると、私たちはパニックに陥り、混乱して間違った行動をする

\* 言わなくてもよいことを言ったり、やらなくてもよいことをやったりして、後で後悔する

\* 「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」  
〈ヨハネ福音書16:33〉



# 現実におしつぶされそうになる恐れ

- \* ペトロは一度は水の上を歩き出したが、「強い風に気がついて怖くなり、沈みかけた」
  - \* 風が強かろうが弱かろうが水の上を歩くことが奇跡なのに
- \* 神様を信じて歩んでいても、現実に心を奪われ、つまずいてしまう
  - \* クリスチャンが抱きやすい恐れ
  - \* 「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われる
- \* 「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」ヘブライ12:2新改訳

# 「恐れ」は人の国にある

- \* 努力が無駄になることへの恐れ<計算>
- \* 経験したことのない事態への恐れ<経験>
- \* 現実におしつぶされそうになる恐れ<認識>

# 神の国には「恐れ」はない

- \* 主にあって無駄なことはない
- \* イエス様はあらゆる困難に打ち勝たれた
- \* 「逆風」に心を奪われないように

「わたしは主、あなたの神。  
あなたの右の手を固く取って言う

**恐れるな、**

わたしはあなたを助ける、と。」

<イザヤ41:13>